

学長挨拶

鈴木 将 史

ご列席の皆様、おはようございます。本日は、第1回世界市民教育シンポジウムにご参加くださり、誠にありがとうございます。

開催に当たり、ジム・ガリソン博士をはじめ、基調講演を引き受けてくださった4名の先生方、また、分科会での論文発表をご準備下さった先生方、そして本日ご参加の全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

創立50周年を迎えようとする2021年、本学は2030年までの10年間の中長期計画「Soka University Grand Design 2021-2030」を策定致しました。このグランドデザインでは、「価値創造を实践する『世界市民』を育む大学」をテーマに掲げ、10年先の本学の発展の方向性を示しました。

世界市民と価値創造を考えると、1996年、創立者池田大作先生が、アメリカのコロンビア大学ティーチャーズ・カレッジで行った「『世界市民』教育への一考察」と題する講演が重要な意義をもっています。

これは、世界市民教育に関する池田先生の哲学の集大成ともいえるべき内容となっており、創価大学の教育・研究にも大変重要な意義をもつ講演です。また、創価大学の未来の方向性を考える上でも大きな示唆を与えています。

講演の中で池田先生は、価値創造力を「端的にいうならば、いかなる環境にあっても、そこに意味を見だし、自分自身を強め、そして、他者の幸福へ貢献しゆく力」と定義しています。そして、「世界市民」を「地球規模で価値創造できる人間」と定義し、世界市民の条件として、智慧、勇気、慈悲の3つを指摘しています。これについてはのちほど基調講演において詳しく述べられます。

Masashi Suzuki（創価大学学長）

本学では、この池田先生のティーチャーズ・カレッジでの講演以後、世界市民教育の研究と実践について努力してまいりました。特に、池田大作記念創価教育研究所が中心となり、世界市民教育の意義やその重要性等について様々な視点から追求する中で、同研究所の主催にて今回の「第1回世界市民教育シンポジウム」を企画・開催することとなりました。

2014年、アメリカのジョン・デューイ協会で歴代の会長を務められたジム・ガリソン博士とラリー・ヒックマン博士、そして池田先生の3者による鼎談集『人間教育への新しき潮流、デューイと創価教育』が発刊されました。この中で池田先生は、創価教育の提唱者である牧口常三郎先生も、デューイの教育理念に大きな影響を受けていたことについて、次のように述べております。

「牧口会長はデューイ博士の哲学に鋭く注目し、その思想の卓越性を宣揚したのです。デューイは、有名な『学校と社会』のなかで、学校教育の理念について、「生活することが第一である。学習は生活することをとおして、また生活することとの関連において行われる」と記しています。牧口会長は、こうしたデューイの哲学を、創価教育学会が目指す「大善生活」の実践に取り入れました」(p. 107)

このように、牧口先生の創価教育学も、“生活”そのものを教育の中心に位置づけたデューイ博士の哲学から触発を受けていたことがわかります。

世界市民とは、決して抽象的な概念ではありません。むしろ、その真の価値は、平和で持続可能な世界を作るうえで、私たちの行動や他者とのかかわりの中に、具体的に現れてくるところにあります。それによって私たちは、自身もつ可能性を最大に発揮しつつ、他者と共に生きる世界を築くことができるのです。従って、世界市民教育においては、学習者が世界市民性を日常生活の中で具体化するための、よりよい方法を探求しなければなりません。

こうした観点から、私たちは、今回のシンポジウムのテーマを「学びを生活に取り戻す：世界市民とジョン・デューイ」とさせていただきました。そして、デューイ研究の第一人者であるジム・ガリソン博士と、日本デューイ学会会長の藤井千春博士に基調講演をお願いいたしました。

更に、世界市民を考えるうえで、今まさに様々な課題に直面している現場で、教育と文化の発展を目指す国連機関である、ユネスコのバンコク事務所から青柳茂所長においでいただきました。また、本学出身で、自ら世界市民としての道を選択し、現在ケニア、ナイロビ大学で教鞭をとっているオダリ・マスミ教授にもご参加いただいております。お二人からも基調講演をいただくことになっております。

基調講演をお引き受けいただいた4名の先生方に、改めて感謝申し上げます。

私の専門は数学と数学教育ですが、文部科学省が約10年ごとに定める学校教育の基準に、学習指導要領があります。その最初のもは第二次大戦後すぐの1947年に、アメリカの教育の影響を受けて作成されました。それはまさにデューイの教育哲学を取り入れ、社会や生活との関連を重視した学習指導要領でした。

しかしそれは間もなく「学問の系統性が反映されない」といって、厳しい批判にさらされてしまいました。系統的に知識を詰め込むことが第一であるという学力観が主流だった時代には、デューイの哲学は受け入れられなかったのです。

しかしその後、AIや情報通信技術が進化するグローバルな未来社会を見据えて、学力観は大きく変わりました。もはや知識の系統的詰め込みは時代遅れとなりました。

2017年に改定された最新の学習指導要領のテーマは「主体的・対話的で深い学び」と表現されるアクティブラーニングであり、求められる学力は「学んだことを人生や社会に生かそうとする力」です。まさに70年の時を経て、教育界は再び「学びを生活に取り戻す」方向へと大きく変化したのです。

その意味でも今回のシンポジウムのテーマは、まさに現在の教育界で最も強く求められている方向を目指していると言えます。

最後に、本日の「第1回世界市民教育シンポジウム」において、世界市民性や世界市民教育について、参加された皆様方が有意義な議論を交わされることを心より期待いたしまして、私からのご挨拶といたします。

本日は大変ありがとうございました。